



NEWS① 省エネ月間の効果について

省エネ通信9月号でお伝えした通り、10/14~11/16までの冷暖房停止期間(中間期)を、省エネ月間として設定し、2つの取組を行いました。

- ①空調機を停止し、窓を開けて換気をしましょう！
- ②エレベーターの使用を控え、積極的に階段を使用しましょう！

省エネ月間を実施していない2023年度を基準とし、2024年度、2025年度の中間期を比較すると下記の結果のようになりました。

中間期電気使用量			
期間	合計(kWh)	1日平均(kWh)	1日平均減少率
2023年度(10/15~11/12)	361,368	12,461	
2024年度(10/21~11/17)	331,452	11,838	5.0%
2025年度(10/18~11/16)	330,324	11,011	11.6%

省エネ月間を実施していない2023年度と比較すると、今年度も省エネ月間の効果が表れたと言えます。また、①の実施日数が2024年度より多かったため、昨年度より大きな減少率となりました。

さらに、冷房稼働の週(10/6~10/10)を基準とし、①について中間期の電気使用量がどの程度減少しているか曜日ごとに比較しました。

電気使用量減少率					
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
10/20~	31%	32%	30%	37%	33%
10/27~	32%	33%	33%	24%	17%
11/3~	休日		24%	28%	30%
11/10~	28%	28%	27%	23%	29%

※土日祝日については、行事の有無により数値が大きく変動するため、11/3,4は比較から除く。

①を実施していない通常の中間期(黒文字)については、平均21.7%の減少となり、①の実施日(青文字)については、平均30.3%の減少となりました！昨年度と同様に、空調機を半日停止することによりさらに約1割減少しました！

空調機を停止することにより今年度も省エネ月間の効果を得られる結果となりました。皆様のご理解、ご協力のほどありがとうございました。